香川県農業試験場研究報告　第 34 号(1982 年 10 月)　 11-15

カーネーションの摘心位置、仕立数および採花位置が開花期および切花数におよぼす影響

堀川法隆

カーネーションを 1980 年 7 月に定植し,1981 年 5 月までの約 10 ケ月間栽培し,摘心位置,仕立数および 1 番花の採花位置が 2 次分枝の発生状況,開花期および 2 番花の切花数におよぼす影響について調査した。

１．1 番花の開花節数と 2 次分枝の発生位置は,摘心位置の影響を受け,低摘心(4 節摘心)で多く,高くなる傾向を示した。一方,2 次分枝の発生位置の範囲は 8 節摘心で広がった。2 番花の切花数には摘心位置の影響は認められなかった。

２．1 番花の開花節数は 1 次分枝の仕立数に影響されなかったが,2 次分枝の発生位置は 1 次分枝の仕立数が多いほど高くなった。また,1 次分枝の仕立数が多いほど 2 次分枝の発生数は減少し,発生位置の範囲も広がった。

３．1 次分枝の仕立数が多いほど 2 番花の開花節数は多くなる傾向を示し,2 番花の切花数は減少した。

４．2 番花の切花数は 1 番花を第 9 節目で採花すると著しく減少したが,採花位置が第 7 節目まででではほとんど差がなかった。なお,2 次分枝の仕立数は 2 番花の切花数に直接影響するので,3 本は残す必要があると考える。